

令和 3 年度

農業農村整備優良地区コンクール

報 告 書



主催 全国水土里ネット

後援 農 林 水 産 省



トウモロコシの栽培状況

静岡県

森町とうもろこしの里地区

太田川上流部土地改良区

継続的な基盤整備で水田3倍活用輪作体系を確立 農家の所得向上や地元の雇用拡大を実現

用排水施設の整備や水田の汎用化で
水稲・レタス・コーンの輪作が可能に

静岡県西部にある森町は、年間平均気温が16度前後、年間日照時間が約2300時間と全国有数の長さで、年間を通じて温暖で穏やかな気候が特徴です。その南部に位置する森町とうもろこしの里地区には、平坦な田園地帯が広がっています。

本地区では長らく稲作が行われてきましたが、扇状地に広がる水田地帯は狭く不整形で、農作業に多大な労力を要していました。また用水不足や排水不良にも悩まされ、稲の品質向上や裏作作物の導入が進みませんでした。

そこで昭和39年度から、県営かんがい排水事業やほ場整備事業、土地改良総合整備事業などを順次実施。区画整理や用排水路の整備などを行い、農業用水の安定供給と営農の効率化が実現しました。また暗渠排水の整備により、水田の汎用化も可能となりました。

そこで裏作物として高収益作物のレタスを導入し、育苗施設整備や品種更新によって作付面積や収量の増加を図り、昭和44年には国の指定産地になりました。また、地区の担い手農家が地域の風土や土壌に合っ

た栽培方法を試行錯誤した末に、昭和62年から転作物としてスイートコーンの導入に成功。さらに平成2年からは、各作物の定植時期をほ場ごとにずらし、「水稲→レタス→スイートコーン」の「水田3倍活用輪作体系」を確立しました。

また平成14年度からは、田植えの遅い水田で飼料用稲のWCS（ホール・クロップ・サイレージ）を導入し、米の需要に応じた計画的な生産を行なっています。飼料を提供した畜産農家から堆肥の供給を受けて畑に還元し、循環型農業にも取り組んでいます。

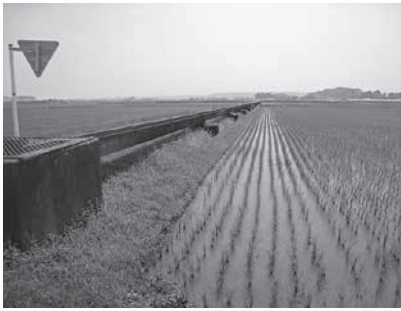
平成25年度からは農業競争力強化農地整備事業を実施し、水田の3倍活用を促進するため、機能低下した暗渠排水を地下水位制御システム（FOEAS）へ更新しました。これにより、水管理の省力化と節水が図られるとともに、乾田化によって機械作業が容易に。一層の効率化やコスト削減が図られ、担い手農家の経営規模拡大につながっています。

**町の農業産出額の65%を本地区が生産
若手農家の活躍で農家数も増加**

これらの取り組みにより、現在では森町とうもろこしの里地区が町の農業を牽引するまでに成長。平成30

位置図





水稻の様子



レタス畑



区画整理後の様子

年度の森町の農業産出額のうち、本地区で生産された野菜が65%を占めています。

また森町の農家数は、平成17年には645戸まで減少しましたが、本地区を中心に若手農家が高収益作物に取り組んだことで農家の所得が大きく向上し、平成27年には747戸と16%の増加に転じました。

水田3倍活用輪作体系の定着や営農規模の拡大により、地域に新たな雇用も生まれました。近隣の離農者などを新たな就農者として受け入れ、雇用を拡大。年間を通じた作付体系の確立により、常時雇用が可能となりました。なかでも地区の中心的担い手である法人では、この5年でとくに若い世代の雇用が急増し、従業員数が25名まで拡大しています。

直接販売やインターネット販売 加工食品開発など新たな取り組みも

雇用労働力を活用することで、手間のかかる収穫や調整などの作業時間が短縮されたため、余剰時間を活用して朝採りスイートコーンの直接販売も開始しました。高糖度品種の「甘々娘」「甘太郎」は生で食べられるほど甘みが強く、口コミで評判が広がり、買い物客が早朝から行列を作るほどの人気に。直接販売の成功により、雇用人の所得も向上しています。

6次産業化にも取り組み、「甘々娘」「甘太郎」を使ったジェラートやアイスクリームを開発。地区内の直売所や集客施設で販売しています。新たにインターネット販売も開始し、スイートコーンを始め、水稲やレタス、次郎柿などをラインナップして、利用者の増加と販売額の向上を目指しています。

基盤整備事業の実施により、地下水制御システムを

事業概要

事業主体	静岡県
事業名	農業競争力強化農地整備事業
工期	平成25年度～平成30年度
受益面積	146.1ha〔水田146.1ha（うち汎用化22.5ha）〕 地区全受益451haのうち、部分更新整備146.1haを実施
受益戸数	427戸
標準区画規模	事業実施前 30a → 完了後 30a
1ha以上の区画合計面積	—
主要工事	用水路工、排水路工、暗渠排水工
関係土地改良区	太田川上流部土地改良区
関係市町村	森町



とうもろこし調整作業



とうもろこし直売所の賑わい

導入したほ場では水田3倍活用輪作体系による営農効率がアップし、地区の耕地利用率は平均132.3%にまで向上しました。今後は同システムの導入をさらに拡大し、地区全体で儲かる農業を推進していきます。